

学生担当者報 1

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 清水慶政 編集責任者 / 中山祥吉

TEL 直通:0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp

TSA Website <https://tsa.tenrikyo.or.jp> Happist <https://happist.net>

Vol. 443

立教 186 年
2023 年
12 月 25 日発行



立教百八十六年 学生担当者大会における表統領中田善亮先生ご挨拶 十一月二十五日・第二食堂

今月は二十五日、二十六日がちょうど土曜日・日曜日となりまして、大勢の帰参者を迎えました。また、青年会総会をはじめ、いろいろな行事をおちばで開催されることも重なりまして、非常ににぎやかに月次祭周辺の日を迎えることができました。は、非常にありがたいことだと思えます。今日、明日あたりは寒くなる予報でしたが、外はポカポカ天気で、何よりありがたいご守護を頂戴していると思わせていただいております。この場は学生担当者大会ということで、皆さま方には日ごろから役回りの上からとは言うものの、学生層育成にご尽力をいただきまして誠にありがとうございます。

教祖百四十年祭を迎える三年千日も約一年が経とうとしているわけでありまして。みなさん自身の年祭活動はどうでしょうか。盛り上がっているでしょうか。みなさんの周囲や教会、あるいはよふぼくさんたちはどうでしょうか。こうお尋ねすると、うつむくどころか「この人は何を言っているんだらう」といった風潮が、昨今は無きにしもあらずだと感じています。教祖百年祭の時は、私は

お知らせ

一月例会

期日…立教 187 年 1 月 25 日
時間…15 時 30 分受付 16 時開始
会場…教庁 4 階講堂

報告

十一月例会

去る 11 月 25 日、第二食堂において「11 月例会」を開催。出席は 39 教区、150 直属。

各地の動き

【教区学生層育成者講習会】

・高知 11 月 2 日 教務支庁

坂本明人委員出向 18 名

【直属学生層育成者講習会】

・池田 11 月 18 日 詰所

春野三千彦委員出向 11 名

・泉 11 月 23 日 大教会

中山祥吉副委員長出向 80 名

・岡 11 月 23 日 大教会

勝村宏樹副委員長出向 181 名

・神崎 11 月 24 日 大教会

中山祥吉副委員長出向 30 名

人事

《立教 186 年 11 月 25 日付》

【直属学生担当委員長辞令交付】

・佐々木貴俊（日野・阿倉川）

・佐藤隆雄（都賀・絹河）

・篠原勇喜（川之江・讃岐有明）

・小林世拓（府内・洛陽）

業務記録

《立教 186 年 11 月 16 日～12 月 15 日》

11 月 16 日 人材育成部部会

事務局連絡会

18 日 まなびばチーム会議

25 日 委員会 例会

26 日 育成に役立つ研修会 スタッフ直前研修会

27 日 育成に役立つ研修会（28 日）

12 月 4 日 学生部部会

5 日 学修部部会

8 日 大学の部研究室

春の学生おちばがえり

プロジェクトチーム会議

9 日 委員会

10 日 広報室会議

10 日 高校卒業生コース研究室

11 日 高校の部研究室

12 日 学生連絡会

12 日 まなびばチーム会議

14 日 勉強会チーム会議

15 日 事務局連絡会

まだ若かったので、あまり全体を見ていたわけではありませんが、その盛り上がりというのは、やはり全教のそれぞれの盛り上がりから集まって大きな盛り上がりになったということは確かであります。それと今を横に並べて比べるわけにまいりませんし、比べるものでもないと思います。しかし、一人ひとりの年祭活動、また教祖年祭の意義というものを考えるときに、一人ひとりの盛り上がりというものは比べてみてもいいのではないかと思います。

教祖に何とか喜んでいただく、勇んでいただくんだ。その思いの熱の違いであります。やることはたすけ一条であります。その具体的などころは、昔と今では違うかもしれません。しかし大きな意味では何も変わらないわけであって、やはり初めに申しましたように、盛り上がっているかと尋ねられた時に、「この人は何を言っているんだろう」というような頭の上を風が吹き過ぎていくということではなくて、本当にこの風を自分の追い風としようとするということが非常に大事なことです。

旬の風を受けて大きなご守護を頂戴するんだと、これは何に對してもそうであります。学生担当委員という役回りの上からも、ここに大きなご守護を頂戴するんだ、ということをも、その追い風を受ける時なんだと、この三年で何とか一段上がって次につなげていけるように、普段の活動につなげていけるようにさせてもらおうという思いを、もつとお互いが持たせていただく必要があるんじゃないか。これは私自身のことも含めて本

にそう思います。ですので、一年目が過ぎようとする今、もう一度振り返ってみて、残り二年をどう通らせて貰うのか、この追い風をどう活かさせていただくかということを真剣に考えさせていただかなくてはならないということを、心から強く思っているところでもあります。

そういう意味で、年の変わり目で来年の活動を考えていく時になるわけですが、根本の所で、しっかりとそういった思いを再確認していただきたいと思えます。三年千日ですから、一年ずつ区切るということが決まっているわけではありません。しかし、我々の普段からの感覚的な上からでも、来年の活動や予算のことなどいろいろそういった仕切りがあるわけです。そういった切りの良いところという意味でも、一度振り返っていただきたいということをまず始めにお願いさせていただきたいと思えます。

年祭活動に限ったことではないですけども、にをいがけやおたすけに必要な物は自分と相手であります。自分と相手があつて、にをいがけもおたすけも成り立つわけです。にをいがけであれば、回らせていただいている中で、よく空振りということがあります。訪ねたお宅から誰も出てこられないことです。私は布教の家の寮生などによく言わせていただくのが、空振りではなく素振りだということです。プロ野球選手でも、一人前のバッターになろうと思えば素振りをするわけです。プロゴルファーだって素振りをするわけです。いろいろな意味を持たせ

【プログラム構成コースの感想】

- ・学生会の行事に限らず、さまざまな行事、活動に取り入れたいと思った。
- ・早速、今進めている行事に反映します。
- ・このノウハウを一人でも多くの育成担当者に触れてもらいたいと思います。

■育成者支援コース内容

育成者支援コースでは、育成者としての心構えを学ぶとともに、「現代の若者の特徴について」などの講義から若者の特徴や流行りを知り、関わり方を考え、組織的なものに限らず、いち育成者として自分にどんなことができるかを受講者同士で考え、共有しました。

【育成者支援コースの感想】

- ・学担としてだけでなく、青年会や少年会、一ようぼくとしても役立つ研修会でした。
- ・自分たちが思っているよりも、はるかに若者は素直で純粋で、自身の行いや態度が若者にうつるのだと知れた。
- ・若者とひとくくりにはせず、一人ひとりとちゃんと向き合い、共感してあげられるようになっていきたい。

青 空

今年の夏、スタッフを務めた学修では、懐かしい再会がありました。私が高校生の時に参加した学修で同じ班だった友人が、看護スタッフとして参加していたのです。本期間前の結団式が終わると、彼女から気付いて声を掛けてくれ、そのときの明るい雰囲気、学生さんを迎える前で緊張していた私はホッと癒やされました。学生だった頃は、人との出会い、特に、苦手としていた学修での出会いを何ともないものとして捉えていました。しかし、先ほどの学修での1コマのように、当時のつながりが、今もお、自らの心に良い影響をたくさん与えてくれます。

私がそうであったように、お道の育成行事が、参加する学生さんにとって、人生のプラスになる出会いの場であり続けてほしいです。そして、より多くの素敵な思い出を持って帰ってもらえるよう、ご用に携わる自分自身が「共に育てていただく」という低い心を今一度意識して、実行に移していきたいです。

人材育成部本部スタッフ 今村里恵

立教百八十六年育成に役立つ研修会開催報告

十一月二十七日、二十八日の二日間で、本部第七・八・九母屋を会場に「育成に役立つ研修会」を開催し、教区・直属・海外から五十八名の方に受講いただきました。

今年は、グループワーク体験コース、トレーナー育成コース、プログラム構成コース、育成者支援コースの四つのコースを設けました。

【コース説明&コース受講者感想】

■グループワーク体験コース内容

グループワーク体験コースでは、学生層育成行事で使用しているグループワークの体験からその有効性を知り、講義からその心得を学びました。

【グループワーク体験コース受講者感想】

- ・聴く力の大切さをグループワーク、講義を通して学んだ。
- ・これからの学生会、少年会に向けた行事のひのきしんも、参加する側の気持ちを忘れずにつとめたいと思った。
- ・研修会を終えた後、直属や所属に二日間の収穫を還元していきたいと感じた。

て素振りをするわけです。いつもボールを打っているわけではなくて、素振りを積み重ねていく。積み重ねによって上を目指していく、成功を目指していく、目的を達成できるように積み重ねていく。そういうふう to 思えば空振りとは素振りでは大違いであります。しかし、見ようによつては同じに見えるんです。球を打っていないわけですから。だけど自分が空振りと思うか素振りと思うかによつて成果は大きく違ってくるかと思ひます。そう思えば、素振りであれば、にをいがけは相手を探して歩いているということになると思ひます。すなわち相手が必要なければです。相手を見つけて初めて、にをいがけ、おたすけがスタートするわけです。

にをいがけをするのに相手が必要と言われるのは分かるが、不特定多数の人たちに教えを説くという気持ちもアリなんじゃないか、という事を尋ねられることがあります。私はそれをナシとは言いません。アリです。ですが不特定多数ばかりを相手にしていたら漠然としたまま時が過ぎてしまふ。そんな気がしてならないのです。例えば路傍講演をすると思定した時、相手は不特定多数でその前に立つて教えを一生懸命に説いている。前を通り過ぎる人たちが聴いているかはともかく、させていたくことに意味がある。これはあると思ひます。

だけれども、どうせするならば私は思ひます。例えば相手が不特定多数だと思つて話をする to 、漠然とした話、教えをそのまま右から左に説く、といった話がどうしても多くなつてし

■トレーナー育成コース内容

トレーナー育成コースでは、各種育成行事で使用しているグループワークの理解を深め、その進め方を習得するとともに、「トレーナーの心得」と題した講義を聴き、トレーナーを務める上で必要な心構えを学びました。

【トレーナー育成コース受講者感想】

- ・トレーナーの態度、姿勢、心遣いがあつてはじめて、学担のグループワークになるんだと感じた。
- ・深くまでグループワークの目的や意味を体感できてよかった。
- ・トレーナーはグループに対して、グループワークを進めるだけでなく、ちよつとした時間に一人ひとりと会話をするこ to も大切だと知れた。

■プログラム構成コース内容

プログラム構成コースでは、各種育成行事の企画、立案、プログラム作成についての知識を解説を交えた実習形式で学び、「プログラミングについて」などの講義を聴き、行事の企画・開催に対する意識を高めました。

まうと思ひます。ですが、自分は大勢の人に話をしていけるけれど、実は自分はこの中の若い人に向かつて話をしていける。あるいは、女性に向かつて子育てについて話をしたいと思つて話す。そういうことであるとすれば、私は話す側として非常に内容の目的が明確であるだけに、話も組み立てやすいし、分かりやすい話が作れると思ひます。もちろん、そうではない人も前を通り過ぎていくわけですけども、こちらの意識が絞られることによつて、こちらの視線や気構えも変わってくるのではないでしょううか。それが通り過ぎていく人たちに映るかはわかりません。だけど漠然とするより、私は何か感じる物を蒔けるのではないかという気がしてならないのです。

地域にもよりますけれども、相手と目的を絞っていくことによつて、必然的に選ぶ場所や時間も設定が違ってくるかと思ひます。戸別訪問であつても、例えば自分の地元でいつも同じ所を回っているのと、遠方で自分の知らない所で、あるいは知り合ひの所に行つて、そこで戸別訪問に回らせていただく。これも同じ戸別訪問でありますけれども意識が違ってくると思ひます。地元であれば、相手もこちらがどこの人であるかがわかりますから、そこにも何らかの思ひが生まれてくると思ひます。遠方でするにをいがけが悪いとは申しません。ですが何かそこに考えるとこ to ころがある。こちらのしようとするこ to の思ひがこ to もつてくれば、具体的な形は違ふ考え方になつてくるかも知れないと思ひます。

そもそも自分一人で世界中の人たちに、いいがけをしようというのはできるものではありません。お道の句いを掛けようにも、相手が不特定であればあるほど、その内容は漠然としてしまいがちでありますから、相手から見てもこちらがおぼろげに感じる。つまり、句いがおぼろげに感じざるを得ないと思うのです。だからこそよふぼく、それぞれが自分自身の特性、得意分野であったり好きなことであったり、あるいは自分のいんねんを思案したところから考えてみて、にいがけやおたすけの相手がある程度考えて取りかかっていくと言うことが、相手探しということにおいては大事なことだと思います。

そういった思案の上に、現実に活動を進めてみて、順調に進んでいくのであれば、それは神様から頂戴する自分のご用だと確信を持つことが出来ると思いますし、責任感と充実感を得ることにもつながると思います。ならば、それはひいては自らの勇み心につながることであって、最初のちよつとした考え方の工夫によって大きく先の活動は結果が違ってくると思います。最初に申しましたように、今の句を考える時に、この風を受けるということ。三年千日をどう使うかということについて二十代の方、三十代の方、四十代、五十代、六十代、七十代の方、さまざまな年代の方がおられると思います。年齢によってその三年の取り方は違うと思います。当然であります。いろいろ経験もしてまいりました。違いはあるけれどもその三年の使い方方はそれぞれの立場からよく考えることが大事だと思います。そ

れによって十年後の三年の使い方がまた変わってくる。これが積み重ねなのだと思います。我々の活動は、この三年千日で終わるわけではありません。しっかりとそこを根底に置いて、大事なことを外さないように思案を重ねたいと思います。そういう意味で、私は以前からオール天理ということを申しで参りました。お道の者が心を揃えて、一手一つになって、世の中にまた身上事情にしっかりと相対していこうということを考えていかなければならない時だという思いからオール天理と言っているわけです。

例えば会活動、学生会はもちろんのこと、婦人会、青年会、少年会などの会活動があります。それぞれ大人、子供、男女など対象が違うわけです。その中でも学生会は婦人会、青年会と被るわけです。何かと活動、目標は分かれているわけですが、それぞれが独自の活動を充実させるということは第一のことだと思います。しかし一方で、それぞれの会活動は最終的に何を目的にするのかということを考えれば、当然それぞれの役割の力を合わせるという一面が必要なわけであります。婦人会が女の人だけの陽気ぐらしを目標しているかといえば、そんなことはありません。少年会が子供だけで陽気ぐらしを目指す、そんなことはないのです。やはり世界中の陽気ぐらしですから、最終的には同じところを目指すわけであって、その役割分担があり力を合わせることは大事なことです。

ここに居られる方の中にも、以前は青年会の委員長をしてい

第六十一期天理教学生会委員長選挙

十一月十一日、南左第一棟 教庁四階講堂を会場に「第六十一期天理教学生会委員長選挙」が行われ、運営委員十九名が出席し、傍聴者十九名が訪れました。

今回は天理大学二年生の廣岡颯さん（郡山大会）、静岡大学三年生の松田定治さん（教会本部）の二名が立候補しました。

立候補者による所信表明の演説が行われた後、運営委員による活発な質疑応答が行われました。学生たちは立候補者の答弁に真剣に耳を傾けました。投票の結果、廣岡颯さんが次期委員長として選出されました。

廣岡さんは『仲間と助け合い、つながりを大切にする学生会』を目指し、全国の仲間と助け合うことで、学生会を助け合いの場、楽しい場にしていきたい。』と述べました。また続けて、『その実現のために、低い心で通り、相手のことを思いやり、人とのつながりを大切にする。また、おつとめをして親神様と向き合い、身体をお借りしている喜びや日々のご守護への感謝をお伝えする。そして、たすけ合いの輪が広がり、学生会に出会えてよかったと思えるような場にしていきたい。』と決意を述べました。

学生一同は、次期委員長を芯とし、来春から始まる第六十一期天理教学生会の一層の充実を誓いました。



たとか、少年会の団長をしていた方が、今は学担の委員長をしているという方がおられると思います。以前は、青年会は四十歳で終わるので次の方にバトンタッチして、俺はもう関係ないというようなことで、そこでぶつ切りになってしまうというところが少なくなかったと思います。そして次は少年会担当になった、であるとか同じようなことが繰り返されていきます。それはとてももったいないと思います。

少年会は直接相手をするのは少年会員ですが、一方で育成会員という存在を持っているわけです。つまり大人です。大人を育成会員にしているわけですが、そんなことは関係なく少年会の委員が終われば自分は終わりという感じになっていたと思います。しかし、今はそんな悠長なことは言っていられません。力を合わせていかなければなりません。

本日は午前中に青年会総会があつて、そこでリーフレットが配られていました。見てみると、そこにひのきしん隊に家族で入れるという企画をやっておられる。写真には夫婦と子供が一緒に写っています。私が青年会をやっていた時には考えられないような状況であります。もちろんそれには背景があつて、私たちが若かった頃には、親里でたくさんさんの普請がありました。毎日普請の仕事をしていたんです。しかし、今は親里で大きな普請はありませんので、毎日そういった仕事はない。ですので女性や子供と一緒にできる仕事で親里に伏せ込もうじゃないか、となつてきたと思います。非常に結構なことだと思います。

の先にどういった展開を考えているのかは存じ上げませんが、その写真を見て非常に喜ばしく感じました。

また夜には後夜祭があります。それまでの間、天理幼稚園を借りて家族で遊べるように設けてある。これも我々が青年会の時代には考えられないことだったと思います。自分のこと、青年会は青年会のことしか考えていませんでした。そうではなくなつてきているということは、ある意味では素晴らしいことだと思います。

しかし、一方で青年会という色はどこに行くんだということも大事なことであつて、両面をしつかり保ちながら充実を目指して行こうと相談しておられることだと思います。垣根を払つて物事を進めつつ、しかし、のめりこみ過ぎず、一歩下がったところからも広い視野でいろいろとやってみる、ということを試みておられるんだと思います。何に関してもお道の活動はそういう時期にあるのだと思います。いろいろと考えてみて、やつてみて、神様の思召に沿わないならば、物事は進まないと思います。進んでいくならば、それで進めてみても良いのではないかと、いつも気持ちをお祖の方へ向ける。これで正しいのだろうか、これで間違っていないのだろうかお伺いしながら、教祖はご存命なので、お伺いをしながら進めてさせていただくということをお忘れず、いろんなことをして見るべきだと思います。

学生たちに思いを致せば、青年会員でもあるし、婦人会員で

立教187年 学生担当委員会 行事計画	
月	学生担当委員会行事
1	おせち学生ひのきしん隊(4～7) ※4～7まで真南棟の事務局は閉鎖。事務所機能はおせち学生ひのきしん隊事務所へ移します。
	例会(25)
	学生生徒修養会 大学の部 スタッフ事前研修会(27～29)
	学生生徒修養会 高校卒業生コース スタッフ事前研修会(27～28)
2	例会(25)
3	学生生徒修養会 大学の部 スタッフ直前研修会(2～3)
	学生生徒修養会 大学の部(4～8)
	学生生徒修養会 高校卒業生コース スタッフ直前研修会(9)
	学生生徒修養会 高校卒業生コース(10～12)
	※2～12まで真南棟の事務局は閉鎖。事務所機能は学修総務へ移します。
	例会(25)
4	春の学生おぢばがえり(28) ※27～29まで真南棟の事務局は閉鎖。事務所機能は春の学生おぢばがえり事務所へ移します。
	例会(25)
5	まなびば研修会(26～27)
	直属担当者懇談会(25)
6	例会(25)
	学生生徒修養会 高校の部 スタッフ事前研修会(27～29)
7	例会(25)
	こどもおぢばがえり学生ひのきしん隊(27～8/4)
8	学生生徒修養会 高校の部 スタッフ直前研修会
	学生生徒修養会 高校の部 ※日程に関しては2月25日例会にて発表予定 ※学修期間中、真南棟の事務局は閉鎖。事務所機能は学修総務へ移します。
	例会(25)
9	道の学生ひのきしんDAY
	教区担当者懇談会(25)
10	例会(25)
	学生担当者大会(25)
11	例会(25)
	育成に役立つ研修会(27～28)
12	例会(25)

くして、若者たちに向き合っていかなければならないと思います。そしてこの道を歩んでいった先には、こういう先輩たちの姿が待っているんだという、明るい希望を与えてあげられるよう、まずは私たちがから明るい心で心の成人の道を歩んで参りたいと思います。

次の一年も、教祖のひながたを道しるべに、お道の人らしい明るい心で、育成のご用を務めさせていただきたいと思います。皆さま方には、それぞれにお忙しい立場かと存じますが、この育成のご用をもう一つの年祭活動だと捉えていただきたいと思います。共々に育成のご用に当たらせていただきたいと思います。そのことをお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。本日はお集まりいただき、誠にありがとうございました。

明日につながる 学生WEBSITE Happist

<https://happist.net> 



QRコード読み取り

- お道の教えや心にグッとくるお話をご紹介します
- おちばの行事情報や各地の学生会情報も充実
- 「Happistスマイル」では学生の笑顔をお届け

学生に手渡しできるリーフレット
HAPPIST [NOT] NET
ハッピースト ネット

毎月25日発行。例会資料としてお配りしています。
部数のご変更は学生担当委員会事務局まで。

もあるし、婦人会の中でも女子青年にあたります。最近では女性も四年制の大学に行かれる方が多くなりました。そうになると女子青年の活動は、卒業してから二・三年しかないという話も耳にします。おかしい話なんです。学校に行っても行ってもなくても女子青年は十六歳からなのです。来るか来ないか、誘うか誘わないかは結局誘う側次第なのです。そこで良かれと思つて誘つた以上、喜んで帰ってもらふような丹精をする。そのことが大事であつて、誘いづらい、一度断られたら二度も三度も言えないというのが人間の気持ちですから、最初から保険を掛けるように、学校に行っているから女子青年活動ができなくなつたとか、活動期間が短くなつたとかいう話は、考え直さなければいけない私たちの姿勢なのだと思います。

例えとして女子青年をあげましたが、それに限つたことではありません。青年会も同じです。昔のように道専務の人が減つたからどうか、結局のところできないことへの保険を最初に掛けてある。できないというか、断られることが嫌だから最初に保険を掛けてある。こういった思いがどこかに隠れていないかということをもう一度考えてみる必要があると思います。簡単でないことは分かっています。私も教会長ですから、分かっていますけれども、そういった保険を最初から用意している自分もいるわけです。ですから、これは全教で、みんなでもう一度考えなければいけないのではないかと思います。

先月、十月の立教の大祭で真柱様が、昨年の十月の論達ご発

布以来で、上段でお言葉を頂きました。一部引用いたします。「この日を境に、教祖のおつしやること、なさることは、すっかり変わったのであります。そういうことです。それまでの教祖を知る人々には、そのなさることが理解できず、相手にされない時期が何年も続いたのであります。」

そのような中を教祖は諦めることなく、根気よく、口で、あるいは筆に記して説き、さまざまな苦勞の中を親神様の思召のままに身をもつて歩まれて、ひながたをお示しくだされ、私たちを陽気ぐらしができるようにお導きくださったのであります。私たちが教祖のひながたに思いを致すときに、教祖はあのと

きこのようにされたとか、このように仰せになったということ

を思い出して、よく参考になされることと思ふのであります。それはいいことなのでありますが、まず教祖は、五十年もの間、どんなことが起こつても諦めることなく、丹精し続けられたという

ことを、これもひながたとして忘れてはならないことなのではないかと思うのでございます。」

とお仕込みくださいました。教祖は、どんなことが起こつても諦めることなく丹精をし続けられたのであります。私自身、今申し上げたように、いろいろな言い訳をしているんです。もう時代が違ふからとか、教祖のひながたや教えを曲げるわけではないから、そのたどり方を思案すればいいんだとか、そう言いながら、今のお言葉で指摘いただく通り、大局的にひながたを思案するということをおろそかにして、とすれば、私は諦

けれども、若い人たちの中には、そうした成人のための努力や苦勞が嫌だ、理不尽だと感じている人もいるかもしれません。確かに、理不尽で納得のいかないようなことは誰もしたくないと思います。

先日、テレビに元プロレスラーの武藤敬司さんが出演されていたのですが、武藤さんは、若い頃はヒンズースクワットを朝千回、夜二千回させられた。お陰で膝がボロボロになったとぼやいておられました。今の世の中ならば、絶対にさせない練習だと思えます。無意味ですし、故障のリスクが非常に高いわけです。ひよつとしたら精神力を鍛えるためにそういったことをさせられたのかもしれませんが、今の世の中ならば、精神力を鍛えるのも他の方法を考えるのではないかなと思います。もしも努力や苦勞が、そういう理不尽なものであるならば、おそらく、その道を選ぶ人はいないだろうと思います。

けれども、スポーツの世界は一昔前とは比べようもないほどにスーパープレイにあふれ、魅力にあふれていると思います。それは体格が良くなったり、練習環境が良くなったりと、さまざまな要因があると思うのですが、一番大きいのは、指導者が良くなって、練習の質が向上したからではないかと私は考えています。指導者が良くなったおかげで、上手に努力をし、上手に苦勞ができるようになったために、パフォーマンスが向上してきたのではないかなと感じています。

めの言い訳をしていることもあったなど、そのお言葉がとても心に強く刺さったのであります。大局的であっても部分的であっても、すべて合わせて五十年。これが教祖のひながたなのであり、私たちはこの道をたどろうと、それも教祖年祭活動の最中で、いつも以上にひながたに焦点を当てて、思索して通らせていただこうという旬であります。

私たちお互いは、三年千日の一年目を終えようとする今、今一度「教祖のひながた」、何のために何を私たちに残してくださったのかということ、しっかりと振り返りながら、そこに温かいありがたいお導きがあるということをしつかりと心に忘れることなく動かせていただいて、この旬に、そのお導き温かみを感じさせていただきたいと思えます。そういう前提の中で、学生担当委員の役割をオール天理の一手一つの力の中においても果たしていただきたい、ということをご希望をいたしたいと思えます。

そして学生たちにも教祖百四十年祭を意識してもらいたいと思います。三年千日、もう三年千日無いです。あと二年、七百五十日ほど、それしかありません。まずは教祖ということ。教祖はこの世にご存命でお働きくだされているということ、神様と同じように天から私たちを見下ろしてくださっているというわけではないんです。「ここにおられる」ということをしつかりと伝えていただきたい。教祖の年祭活動云々の前に、教祖がご存命でおわすということを、まずしつかりと教えてあげていた

現在の選手たちは、昔の人たちに比べて努力や苦勞をしていないかという点、全然そんなことはなくて、むしろ昔よりもハードでストイックなトレーニングをこなしているように思います。なぜそこまでできるのかと不思議に思うほど頑張っていると思うのですが、そこには、何のためにそれをするのかという納得と、やればやるほど良くなっていくという手ごたえがあるからこそ、頑張れるのだと思います。また、この努力の先には、こういう喜びの景色が待っている、という希望が持てるからこそ、苦しい練習も楽しみに変えて頑張ることができると思えます。選手たちに努力や苦勞をするための納得と手応えを与える。そして、頑張った先にどんな喜びの姿が待っているのかという希望を指し示す。そういう導きがあるからこそ、たとえ辛くても、苦しくても、自ら苦勞を選んで進んでいけるのだと思います。

お道の信仰も同じだと思うのです。若者たちには納得と手応え、そして希望が必要です。学生担当のご用を担う私たちが、そうした若者たちの良き導き手であれるよう、努力をして参りたいと思います。

次代を担う若者たちに、この道を歩んでいってもらいたいと願うならば、若者たちに、何のためにこのお道を通るのかという納得と、信仰していて良かったという手応えを掴んでもらえるように、手間暇をかけて、真心を尽くして、また、言葉を尽

きたいと思えます。同時に年祭活動における学生たちの役割分担も考えていただくなら、非常にありがたいことだと思えます。学生たちですから、二十歳前後の人たちにできる活動もあるだろうし、年齢を考えるなら次の年祭につなげていくという考え方もあると思えます。次も、その次も彼らにはあるんです。その前提でしつかりと大事なことを伝えていくということも年祭における私たちのご用なのだと思います。

いろいろと申し上げましたけれども、どうか将来のお道を担う人たちを丹精するという思いを、皆さん自身が今一度熱く持っていたらいて、そして一年を振り返って、もう一度仕切り直して、二年目三年目と残る月日を意義ある時間にして過ごしていただきたい。また、いただけるようにしていきたいと思えます。

本日は厳しい言い方をしたところもあるかと思えます。しかし、これは大事なところなのだと思うんです。今、私たちがしつかりさせていただくことをしないと、次へ、十年後にまた年祭となるために、そのために今を過ごさずにはないですけれども、大事なことだと思えますので、どうか学生担当のご用のみならず、全体の中においてどう位置付けていくか、どう役割をしていくか、ご思案いただけますようお願いしたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

(文責 清水慶政)



立教百八十六年 学生担当者大会における
清水委員長挨拶 十一月二十五日・第二食堂

皆さま、こんにちは。本日は青年会総会や、各直属の団参などで非常にお忙しい中にも拘わらず、この学生担当者大会に大勢ご参集くださりましたこと、高い所からではございますが、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

只今は表統領先生より、親心こもる叱咤激励のお言葉を頂戴いたしました。これを聞かせていただきました私たちは、ぜひ旬の追い風を受けて、大いに奮起して学生層の育成にあたらせていただきたいと思います。

さて、先ほど表統領先生のお話の中にもございましたが、先月二十六日のご本部の秋季大祭において、真柱様から直々にお言葉を聞かせていただくことが出来ました。今日、引用させてもらおうと思ったのですが、全く同じところだったので割愛いたしますが、表統領先生も仰っておられたように、教祖は五十年の間、どんなことが起こっても、諦めることなく丹精を続けてくださった。そして、こうしたことも教祖の大切なひながたなのだということを真柱様はお示しくくださったわけであります。この真柱様のお言葉通り、ここにお集まりの先生方には、コロナ禍の影響で一

旦途絶えてしまった学生同士のつながりや、また活動を何とか再び取り戻そうと、学生のために一肌も二肌も脱いで、時間を使って丹精にあたってくださいましたことと存じます。先生方のご努力、ご尽力のお陰で各教区、各直属の学生会の活動も徐々に活気を取り戻し、この秋には、多くの教区、直属の学生会で、学生会の総会を開催していただいております。また、春の学生おちばがえりも、完全な形とは言えないまでも、全国から学生が寄り集い、無事に開催させていただくことができました。熱心に引率にあたってくださいました先生方の熱意や意気込みを、お会いした時に私自身聞かせていただきまして、非常に勇ませていただきました。

そもそも丹精という言葉は、飾り気や偽りのない心、真心や誠意を表す言葉でありまして、心を込めて物事をすることを表す言葉であります。そう考えますと、先生方がなさってくださいましたように、学生たちのために手間暇をかけて真心を尽くすことが、まさに丹精ということであり、教祖のひながたを辿るといふことになるのかもしれませんが、とはいえ、思いはあれど、なかなか現状は厳しく、どうしたらいいのか分からず途方に暮れるという場面も少なくはありません。けれども、そんな時こそ真柱様が仰るように、五十年の間、どんなことが起こっても諦めることなく、丹精し続けてくださった教祖のひながたに、思いを致すことで、きっと私たちは明るい心でふしを乗り越え

ていけるのだらうと思います。

さて話は変わりますが、昨年私はこの場で、学生担当委員会の基本方針を発表させていただきました。基本方針は「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」であります。教祖の年祭に向かうこの旬に、まずは先に道を歩む私たちが、教祖を慕い、教えをしつかりと心に治めて、この道の信仰のありがたさと、ひながたを辿る喜びを学生に伝えていきたい。そして教祖のひながたを道しるべに、陽気ぐらしへ向かうこの道を学生と共に歩んでいきたい。そういう思いを込めてこの方針を出させていただきました。

しかしながら、私たちお道の信仰者が、教祖のひながたを辿らせていただこうと思うと、やはり、心の成人のための努力と苦労が伴ってくると思うのです。スポーツや勉強に置き換えれば分かりやすいと思いますが、実力を高めようとか、良い成績を残そうと思えば、必ず何らかの努力を払わなければならないと思います。そしてその努力は楽しいことばかりではなく、時にはしんどい思いもしなければ、自分の実力を高めていくことはできません。職人の道や武道の道には修業という言葉がありますが、これがまさに自分を成長させるための努力であり、苦労を表す言葉だと思います。お道では修業とは申しませんが、これと同じように、私たちお道の信仰も、心の成人の道である限り、努力と苦労を避けて通ることはできません。